

平成29年11月28日  
(2017年)

保護者の皆さまへ

吹田市立南山田小学校  
校長 上野 佳寿子

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について

本年4月、6年生を対象として「平成29年度 全国学力・学習状況調査」を実施し、9月下旬には個人ごとに結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

### 『平成29年度 全国学力・学習状況調査』とは…

#### ①教科に関する調査(国語・算数)

- ・主として「知識」に関する内容A問題⇒学習における基礎基本的な力を調べます。
- ・主として「活用」に関する内容B問題⇒知識技能を実生活の様々な場面に活用する力を調べます。

#### ②生活習慣や学習環境等に関する調査(質問紙調査)

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関するアンケート調査です。

本調査は小学校最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを先ず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが調査本来のねらいであると考えます。

学校としましては、調査結果を客観的且つ組織的に分析することにより、どのような指導がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小・中学校における連続した取組みとなるよう、具体的な指導方法の工夫改善を図ってまいります。

ご家庭におかれましても、以下の分析結果を今後の家庭学習の指針としてご理解のうえ、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### I. 教科に関する調査

#### 概要

**国語** ◎A問題、B問題とも平均正答率が全国値を上回っています↑

**算数** ◎A問題は平均正答率が全国値を上回っています↑  
B問題は平均正答率が全国値を大きく上回っています↑

◎国語、算数ともに平均正答率が全国値を上回りました。

# 成果と課題、今後の改善策

## 国語

### 成果

#### 話すこと

話の構成を工夫して話すなどのスピーチメモの良さを捉える問題の正答率が全国値を大きく上回っており、授業での意見交流や学級活動における発表など、技能は身につけています。

#### 読むこと

目的や意図に応じ引用して書くことの問題の正答率が全国値を上回っており、文章中から必要なことを抜き出すなど、基本的な「読むこと」に関する力は身につけています。

### 課題

#### 書くこと

目的や意図に応じ必要な内容を整理して書く問題では、正答率が全国値を下回っています。短答式の問題形式は正答率が全国値を上回っていますが、記述式の問題形式では正答率が全国値を下回っています。

#### 言語

漢字の書き取りでは、具体的にイメージできる言葉の漢字（「置く」）は正答率が全国値を上回っていますが、抽象的な言葉（「対象」）は正答率が全国値を下回っています。また、手紙の構成や俳句の情景を捉える問題で、正答率が全国値を下回っています。

### 改善策

- ・自分の考えを明確になるように構成を考えて書くことを目標に、引き続き、国語の教科にとらわれず、各教科において、記録、紹介、説明、要約といった日々の授業の中で、書いて表現する活動に取り組んでまいります。
- ・今後も伝統的な言語文化に触れる機会を持つとともに、言葉の持つ意味を確認し、表現したり理解したりするために必要な語句の量を増やし使える範囲を広げていくことをねらい、言語感覚を豊かにしていく指導に努めてまいります。

### 成果

A（知識）問題、B（活用）問題ともに平均正答率が全国値を上回っています。

### 課題

#### 数と計算

商を分数で表す問題では、全国値を下回って、正答率が低い結果となりました。

#### 量と測定

仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を記述する問題で、全国値を上回っていますが、正答率が低い結果となりました。

#### 図形

基準量と割合を基に、比較量を判断し、理由を記述する問題で、全国値を上回っていますが、正答率が低い結果となりました。

#### 数量関係

割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題で、全国値を上回っていますが、正答率が低い結果となりました。

### 改善策

- ・計算の意味理解に重点を置きながら、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図ってまいります。
- ・友達との間で話し合う活動を積極的に取り入れ、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて根拠を明らかにし、筋道を立てて説明したり、論理的に考えたりする力を育成するよう、今後も取り組んでまいります。

## 算数

## Ⅱ. 学習意欲や学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査の傾向

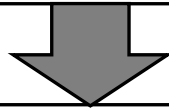
### 学習環境・生活環境について

#### 成果

- ・テレビゲームをする時間などのルールを家の人と決めていると答えた児童の数が全国値を上回っています。
- ・学校の決まりを守るという意識も高く「友だちとの約束を守っている」「いじめはいけないことだと思う」の項目も全国値を上回っています。

#### 課題

- ・学習塾などに通う割合が高いですが、家で学校の授業の復習をしていると答えた児童の割合は全国値を下回っています。
- ・地域や社会とのつながりを意識した回答が少なく、地域のボランティア活動への参加経験は全国値を下回っています。



#### 改善策

- ・学校で児童は、児童委員会が決めためあてを意識して生活しています。引き続き自分たちで決めためあてを自分たちで守っていく姿勢を大切に取り組んでまいります。
- ・家庭学習に意欲を持てるような取り組みを学校の授業に取り入れてまいります。発展的な内容や自主的な学習を促すなど、家庭学習と学校での学習をつなげていくよう努めてまいります。

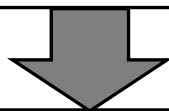
### 教科・学習について

#### 成果

- ・授業の最後に学習内容をふりかえる活動がよく行われていると感じている児童の数が全国値を上回っています。
- ・授業で自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと感じていない児童の数も全国値を上回っています。

#### 課題

- ・授業で学習したことが将来役に立つと感じている児童の割合が全国値を下回っています。
- ・総合的な学習の時間に自ら課題をたてて整理し、調べたことを発表する活動に取り組んでいると感じている児童の割合も全国値を下回っています。



#### 改善策

- ・本校では、児童一人ひとりの表現する力と、紡ぎあう力をもった子どもの育成を目指しています。自分の考えを伝え、高め合っていく取り組みを今後も続けてまいります。
- ・学習課題を、授業の中だけでなく生活にもつながっていくようなものにし、総合的な学習などの取り組みの中で、地域とのつながりを今後よりいっそう大切にしていきたいと考えています。

### Ⅲ. 学校教育目標、努力目標委員会研究主題と調査結果の関係

#### 学校教育目標

## 心を磨き、志を育む ～その根を培う～

### —調査結果から見える南山田小の子どもたち—

#### ① 自ら学び考える【意欲的・主体的に学ぶ子ども】

- ◎話し合い活動で、相手の話を最後まで聞き、その考えを受け止めて自分の考えをもつ。授業で学んだことを他の学習や普段の生活で生かす。
- 算数の授業で新しい問題に「解いてみたい」と思い、諦めず色々な方法で考える。
- △自分の考えや意見を発表することが得意である。家で計画を立て勉強（予習復習）をする。

#### ② なかまを思いやる

##### 【違いを認め合い、豊かな人間関係を築く子ども】

- ◎学校で友だちと会うのは楽しい。いじめはどんな理由があってもいけない。人が困っているとき進んで助ける。
- △話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かし、折り合いをつけて話し合い、意見をまとめる。



#### ③ 自分を大切にする

##### 【自尊感情と豊かな感性を持ち、たくましく生きる子ども】

- ◎自分にはよいところがある。先生はよい所を認めてくれている。将来の夢や目標をもっている。人の役に立つ人間になりたい。読書が好き。好きな授業がある。
- △家の人と将来のことについて話す。

#### ④ 心豊かな【進んで協力し、実行力のある子ども】 **みな小っこ**

- ◎学校でみんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある。ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。
- 難しいことでも失敗を恐れず、挑戦している。友だちとの約束、学校のきまりを守る。

◎：全国値を上回っている △：全国値を下回っている

◆児童数が多くても全校朝会で時間前に集合して並び、静かに話を聞く南山田小学校の児童。

これからも全ての教育活動で児童が安心して、『明日も学校が楽しみ!』と、思う学校づくりに全教職員で取り組みます。また、ご家庭での生活習慣や家族との繋がりが児童の健全な育成に尽力していることも伺えました。「ほめる、笑う、しかる」を”愛”言葉に家庭が安らぎの場であり、学校と家庭がともに「子どもにとってどうすることが一番よいのか」を考えていくことを大切にしていきたいと思えます。ご協力よろしくお願い致します。

#### 努力目標委員会研究主題

### 自ら考え、互いを認め、高めあう子の育成～自己を見つめ、紡ぎあう授業づくり～

平成26年度より、論理的に考え、自分の考えについて要点をおさえてわかりやすく伝える力を育てるために、国語科において、説明文指導の研究実践を重ねてきました。その成果は、今回の全国学力調査における、国語科での「話すこと」や、教科・学習についてのアンケートにおいて見られます。

今年度からは、新しく教科となる道徳科において、引き続き、互いの立場や考えを尊重して伝えあい、高めあう力を身につけることができるよう取り組んでまいりました。本校の児童の課題としては、アンケート結果にも見られるように、地域や社会とのつながりへの意識が薄く、受け身な姿勢が多く見られる点です。道徳科においてだけでなく、ペア・グループ活動を含めた、話し合い活動を充実させ、書く活動を積極的に取り入れて、「自ら考え、互いを認め、高めあう子の育成」を目指して、さらに研究を進めていきたいと考えています。